

## 日本植物病理学会報（和文誌）投稿規程

（平成7年11月25日，平成8年4月3日，平成10年5月19日，平成11年11月20日，平成12年11月25日，平成14年4月3日，平成14年8月15日，平成15年3月27日，平成17年3月28日，平成21年3月26日，平成23年11月24日，平成28年3月20日一部改正）

1. 投稿者は原則として本会の会員に限る。ただし，共同著者はこの限りではない。また，非会員でも規定の投稿料を支払えば投稿可とする。
2. 投稿原稿は総説・原著論文・短報・病害短信・論説とし，いずれも植物病理学に関連した未発表のものに限る。
3. 投稿原稿は表・図を含め正1部副2部の計3部それぞれに，必要事項を記入した和文投稿票\*を付して，編集委員長（〒464-8601 名古屋千種区不老町 名古屋大学大学院生命農学研究科植物病理学研究分野 川北一人）あてに送付する。
4. 投稿原稿は和文とし，投稿規定ならびに投稿細則に従ったものに限る。原稿に不備がない限り，編集委員長に原稿が到着した日を受付日（received date）とする。
5. 投稿原稿は掲載可能かどうか審査されるが，最終的な採否は編集委員長が決定する。原著編集委員は原著中の字句について添削，訂正を行い，内容について著者に訂正を求めることがある。訂正を求められた原稿を1カ月以内に再提出しない場合は原則として投稿を取り下げたものとして処理する。原稿の審査が終了し，編集委員長が掲載上問題がないと判定した日を受付日（accepted date）とする。なお，原稿中の英文で書かれた摘要・表・図の説明はすべて，受理后，編集委員長が依頼した英文校閲者に送付し，英文校閲を受ける。
6. 受理された原稿は，英文校閲者および編集幹事長の指示に従って訂正し，最終原稿の電子ファイルを編集委員長の指定の期日までに提出する。原稿は，編集幹事の校正を経て印刷所に送付される。
7. 著者校正は原則として初校だけとする。校正は誤植の訂正だけにとどめ，内容の変更は認めない。ただし，編集委員長がやむを得ないと認めたもの限り，実費の補償を申し受けて許可することがある。
8. 総説は刷り上がり8頁以内，原著論文は刷り上がり6頁以内，短報・論説・病害短信は刷り上がり3頁以内を原則とする。この頁数を超過した分は実費を著者負担とする。ただし，総説では12頁，原著論文では10頁，短報・論説では5頁，病害短信では3頁を超えないことが望ましい。なお刷り上がり1頁は2100字程度である。
9. カラー印刷，その他著者のとくに指定する印刷はすべて実費を著者負担とする。
10. 論文で新規に明らかにした核酸塩基配列は，著者の責任においてDDBJ/EMBL/Gen Bankデータベースに登録するものとする。そのaccession No.を論文が受理されるまでに取得し，論文の第1ページ目脚注ならびに本文中該当箇所（本文，表説明，図説明のいずれか）の計2箇所に記載する。
11. 著者は，掲載された論文において制限頁数内の印刷1頁につき，投稿料として，非会員は6,000円を支払うものとし，会員は無料とする。ただし，超過頁は会員および非会員ともに1/2頁につき18,000円を支払うものとする。カラー印刷頁は別途実費\*\*を支払うものとする。
12. 別刷は100部単位で実費を著者負担とする。
13. 講演要旨は担当座長が内容，字句等について検討し，大会委員長あるいは部会長が2次審査を行う。最終的な採否は編集委員長が決定する。講演要旨は日本植物病理学会で定めた書式に従う。
14. 掲載された論文の著作権は日本植物病理学会に帰属する。

### 付 則

1. この規程は平成28年3月20日から施行する。
2. 編集委員長の氏名および住所は事務局の移動に伴い変更する。

## 日本植物病理学会報（和文誌）投稿細則

（昭和47年6月1日制定，平成2年4月1日，平成6年4月3日，平成10年5月19日，平成11年11月20日，平成12年11月25日，平成14年4月3日，平成15年3月27日，平成20年4月25日，平成28年3月20日一部改正）

1. 原稿はA4判用紙縦型に横書きし，40字前後/行，25 行で行間隔を広くとって（7～9 mm）印字する。なお刷

\* 投稿票は各巻の第1号に刷り込んである。不足の場合は，コピーをとって使用すること。

\*\* A4片面64,000円，A4片面連続105,000円を目安とする。なお，PDF版におけるカラー写真の掲載は無料とする。

り上がり 1 頁は2100字程度である。

原稿の左右両端は少なくとも 2~3 cm, 上下は 3~5 cm の余白を設け, 各頁右上隅に, 第 1 著者名, 通し番号 (ページ) を記す。また第 1 頁左上隅には原稿の正, 副の別を記入する。

2. 原稿は原則として常用漢字および現代かなづかいを用いた口語体とする。動植物名および外来語はカタカナとする。植物病名は原則として, 日本有用植物病名目録(日本植物病理学会発行)に従う。

農薬名は原則として一般名を用い, 薬品名や学術語等, 不必要な欧語を使用することは避ける。

3. 投稿原稿は以下のように記述する。

a) 原稿の第 1 頁には表題, 著者名を和文で記す。さらに著者の所属機関およびその所在地 (郵便番号を記入) を上ツキ数字 1, 2, 3 による脚注として, 下方に脚注線を引いてその下に和文および英文で記載する。Corresponding author には上ツキ\*印を付し, 脚注線下最終行にその E-mail アドレスを記す。

b) 第 2 頁に英文 abstract を 2 段送り (ダブルスペース) でタイプする。長さは原著論文では 350 語以内, 短報・論説では 100 語以内とする。病害短信では, 宿主一般名・宿主学名・病原体一般名・病原体学名・病害英名・病害和名 (ローマ字表記)・発生年月・発生地など Key となる項目の記載のみに絞った 1-2 文で記述する。

記載方法は見出し (ABSTRACT) の次に 1 行空けて, 著者名, 年号 (空欄), タイトル, 雑誌名, 巻号 (空欄), 頁 (空欄) を書き, 次に 1 行空けて abstract の本文を書く。さらに 2 行離して論文内容を的確に表す 6 語以内の英語句を Key words として記す。Key words には生物名 (普通名, 学名のいずれか一方), 方法, 実験内容等を示す語あるいは句を用いる。

abstract の記載例:

### ABSTRACT

UI, T<sup>1\*</sup>, NAIKI, T.<sup>1</sup> and AKIMOTO, M.<sup>2</sup> ( ). A sieving-floatation technique using hydrogen peroxide solution for detemination of sclerotial population of *Rhizoctonia solani* Kühn in soil. Jpn. J. Phytopathol. ( ): ( ).

A sieving and ..... soils.

Key words の例:

fungistasis, *Fusarium oxysporum*, autoclaved soil, phytoalexin, late blight, *Solanum tuberosum* など

c) 本文は第 3 頁からとする。原著論文では, 緒言, 実験材料および方法, 実験結果, 考察 (各項の表題は自由とする), 和文摘要, 引用文献の各項目の順に記述する。短報・病害短信・論説では緒言, 実験材料, 実験結果, 考察を各項目に分けずに記述し, 引用文献を末尾に加える (和文摘要は不要)。

4. 本文中の生物名は, 原則としてその最初の記載箇所において, 和名の後にカッコして学名を記す。

5. 本文中の数式は  $\frac{RT}{nF} \ln \frac{b}{a}$  のように書かず, 誤解を招かない限り,  $(RT/nF) \cdot \ln (b/a)$  のように書く。

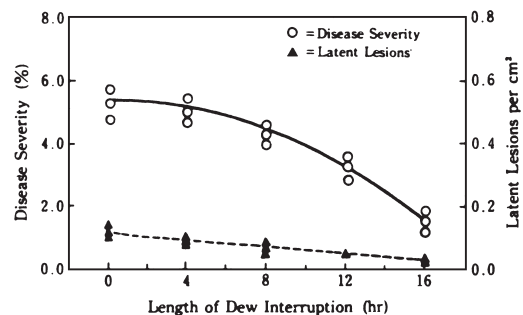
6. 表および図は以下の点に留意する。

a) 表は本文中に直接挿入せず, 個々に別紙 (A4 判) に刷り上がり時と同様のスタイルで印刷する。表中の文字は極力略字を用いて短くする。表中の注には肩付きの a), b), c) .....を用いる。それぞれの欄外に著者名を明記する。

b) 図は本文中に直接挿入せず, 個々に A4 判白紙 (トレース紙も可) または淡青色方眼紙に墨書する。また, それぞれ頁の欄外に著者名, 図の番号, 希望縮尺比等の指示事項を明記する。

c) 図は原則として著者の原図をそのまま使用できるように, 約 1/2 (面積としては約 1/4) に縮尺できる大きさに描く。グラフの線の太さ, グラフ内の文字, 数字, 記号等は縮尺等を考慮して, 適切な大きさおよび太さとなるように留意すること。グラフは原則として, モデルに示すように四方を囲んで箱型にし, いずれの辺にも目盛りをつけること。棒線グラフ等をスクリーントーンで類別する場合は凡例を脚注ではなく, 図中に入れ込むこと。著者が希望する場合, あるいは編集委員会が不相当と認めたとき, 図のトレースや図中の文字等の活字化を専門家に依頼する。このときは実費を全額著者負担とする。

d) 図に用いる写真は刷り上がり寸法の 1~1.2 倍のものが望ましく, 薄手の白紙に貼り, 欄外に著者名, 図



図のモデル

- の番号、希望縮尺等の指示事項を記入する。副原稿は写真原図が望ましいが、カラー写真ならばカラーコピーで、白黒写真であればコピーで代用できる。
- e) 図の表題と説明はそれぞれ別の A4 判用紙に印刷する。
- f) 原稿の表および図の表題と説明は、和文、英文のいずれか一方とし、併記しない。
- g) 表および図の挿入箇所は本文原稿の右欄外に第○表、第○図と朱書きする。
- h) 表、図および図の説明は、この順序で本文原稿の末尾につける。
7. 引用文献は本文中に引用した文献だけを著者名の ABC 順に配列する。第 1 著者が同じ場合は年号順に配列する。本文中で引用する場合は原則としてカッコで(著者名、年号)のように記入する。未公表、準備中、投稿中、審査中の論文は「引用文献」には記載せず、本文中に(著者名、未発表)のように記述する。
8. 引用文献は以下の例に従って記述する。
- a) 雑誌名は 1 語のときは省略しない(例: Nature, Phytopathology 等)。略記する場合には和文誌は日本自然科学雑誌総覧、日本農学進歩年報、欧文誌は World List of Scientific Periodicals, Biological Abstracts, Chemical Abstracts, Index Medicus に従う。
- b) 引用文献は次のように記す。ただし、とくに号数を表示する必要があるときに限り、号数を ( ) 内に記し巻数の後につける。
- 日野稔彦・吉井 甫 (1968). *Nicotiana glutinosa* とタバコとの接木植物におけるタバコモザイクウイルスの移動. 日植病報 34: 61-68.
- Lumsden, R.D. and Bateman, D.F. (1968). Phosphatide-degrading enzymes associated with pathogenesis in *Phaseolus vulgaris* infected with *Thielaviopsis basicola*. *Phytopathology* 58: 219-227.
- c) 単行本は次のように記す。
- 単行本を引用する場合は、引用頁を示し、総頁を記載しない。
- Plank, J.E. (1980). *Plant Disease: Epidemic and Control*, pp. 226-228, Academic Press, New York.
- 岡本 弘 (1962). 植物病理実験法(明日山秀文ほか編). pp. 301-334, 日本植物防疫協会, 東京.
- Ellingboe, A.H. (1984). Genetics of host-parasite relations: an essay. *In Advances in Plant Pathology*, Vol. 2 (Ingram, D.S. and Williams, P.H., eds.). pp. 131-151, Academic Press, New York.

- d) 講演要旨を引用する場合は、最後に(講要)あるいは(Abstr.)を記す。
9. 単位は以下に従って使用する。
- 長さ: km, m, cm, mm,  $\mu\text{m}$  ( $\mu$ -ミクロンは使用しない), nm ( $\text{m}\mu$ -ミリミクロンは使用しない) など。
- 面積:  $\text{km}^2$ ,  $\text{m}^2$ ,  $\text{cm}^2$  など. a, ha は使用してもよい。
- 容積: kl, l (英文中は liter(s) とし, l としない), ml,  $\mu\text{l}$  ( $\lambda$  は使用しない) など. l は使用しない。
- 体積:  $\text{km}^3$ ,  $\text{m}^3$ ,  $\text{cm}^3$  (cc は使用しない),  $\text{mm}^3$  など。
- 重量: kg, g, mg,  $\mu\text{g}$  ( $\gamma$  は使用しない), ng, pg など。
- 時間: 秒, 分, 時間, 日など, 英文中では s, min, h, day(s), week(s), month(s), year(s) などとする。
- 濃度: M, mM,  $\mu\text{M}$ , N, % (数字を伴う時および図表中のみ). g/l, mg/l,  $\mu\text{g}/\text{ml}$ , ppm, ppb などは使用してもよい。
- 温度:  $^{\circ}\text{C}$
- 重力:  $\times g$
- 分子量: 単位はつけない。
- その他: 同位元素  $^{32}\text{P}$ , 放射線量 Bq, 酸化還元電位 rH, 水素イオン濃度 pH.
10. その他 5 桁以上の数を書く時は、例えば 87, 547, 300 のように数字を 3 桁ごとにコンマをつけて区切る。4 桁の場合は、5490 のようにコンマを入れない。また頁数、引用文献中、図表中、キャプション中の数字にはコンマを入れない。また、英文の場合、数量を示す数が文章の初めにくる時にはアラビア数字を使わない。
11. 投稿の際、著者は下記に示す作成要領に従って和文投稿票に記入する。
- a) 記載すべき索引事項は、以下の 4 項目である。
1. 病原名 (主要な病原名 2 つ以内、または属名など)
  2. 植物名 (主要な植物名 2 つ以内、または科名など)
  3. 研究事項名 (投稿票中のリストより 1 つ選ぶ)
  4. 補足事項名 (原則としてこの項目は省くが、研究事項だけでは不十分な場合にのみ、論文題名あるいはキーワード中より 1 つ選ぶ)
- b) 各項目は次の要領に従って作成する。
- 病原名
- i) 学名を用いる。
  - ii) 2 種の病原の場合は両者とも見出しとする。
  - iii) 3 種以上の病原の場合は、以下のうちのいずれか 1 つを選ぶ。①主要な 2 種の病原に限る; ②属またはグループでまとめる (*Fusarium* spp., *Potyvirus* など)

ど)；③病原体全体を示す総称(ウイルス，ウイロイド，ファイトプラズマ，バクテリア，疫病菌，うどんこ病菌，さび病菌，線虫など)

iv) 病原が関係しない内容の場合には，この項目を省く。

#### 植物名

- i) 和名(病名目録を参照)とする。和名が無いときは学名を用いる。
- ii) 2種の植物の場合は両者とも見出しとする。
- iii) 3種以上の植物の場合は以下のうちのいずれか1つを選ぶ。①主要な2種の植物に限る；②科でまと

められるときは科名(イネ科，ナス科など)を用いる；③それ以外は農学的総称(食用作物，野菜，草花など，病名目録参照)の見出しを用いる。

iv) 植物が関係しない内容の場合には，この項目を省く。

#### 研究事項名

- i) 研究事項名は1つとする。
- ii) 研究事項名は投稿票に記したリストの中から著者が選ぶ。ただし，著者がそれ以外の事項名を新たに使用したいと希望した場合は，編集委員長が著者と協議の上決定する。